

全集中で
お伝えします！



奥州市民活動支援
コーディネーターの
鈴木まゆ子さんが、
市内の市民公益活動
団体を紹介します。

■問い合わせ
本庁地域づくり推進課 市民活動係
(江刺総合支所・☎ 34-1618)

思いをカタチに 地域づくりの輪



奥州市レクリエーション協会

レクリエーションを広く市民に伝えたいという思いから、年1回レクリエーションセミナーを開催しています(本年度は市民提案型協働支援事業補助金を活用)。今年のテーマは「笑いと笑顔」。「小指の思い出」や「瀬戸の花嫁」など往年のヒット曲を使ったレクリエーションダンスの体験や、認知症サポート医師によるユーモアあふれる講話、

活気と笑いのある活動に

と、皆さんは何をイメージしますか？ 小学校での体験活動だったり、体を使って遊んだりするようなイメージがあるのではないのでしょうか。レクリエーションはそれだけにとどまらず、さまざまな手法や目的があり、幅広い年代で行うことができます。

奥州市レクリエーション協会は、市民が心身共に健康で明るく暮らしていけるように、レクリエーションの機会の提供や普及啓発活動を行っている団体で、現在17人の会員で活動しています。

今後は、地域に根差した取り組みにも力を注いでいきたいと考えている同協会。高齢化社会の中、介護予防にも積極的にレクリエーションを取り入れてほしいという思いが

地域にもっとレクを

さらに、レクリエーションの普及活動として、2カ月に1回「レク・ケア・カフェ」を開いています。このカフェは「より楽しめるためには」「幅広い年齢の人が参加できるものにするためには」など、参加者が主体となって自由にアイデアを出し合いながら新しいレクリエーションを作り上げる内容になっており、誰でも気軽に参加でき、活気があって大変好評です。

市出身の落語家・桂枝太郎さんによる軽快な寄席を催し、終始、会場は笑いと笑顔に包まれていました。



レクリエーションセミナーを開催した協会の皆さん



有名曲に合わせ、簡単な振り付けで楽しめるレクリエーションダンス

ら、高齢者施設での普及や支援を行っているほか、小中学校や地区振興会などからのレクリエーション支援の依頼も積極的に受けています。

動を通して参加者を笑顔にしたい。そのため今後もレクリエーションを啓発していきたい」と意欲的に語っていました。



<今月の表紙>

チャレスポおうしゅう 2020

11月8日、ふれあいの丘公園で「チャレスポおうしゅう2020」が感染症対策を取った上で開かれました。これまで行われてきた「チャレンジデー」と「スポレク奥州」を再編した、さまざまなスポーツやレクリエーションが体験できる新しいイベントです。写真はシャフルボードの一コマ。体験した家族は体を動かし楽しんでいました。

Public Relations Magazine Oshu City

2020.12 Vol.178

広報おうしゅう
令和2年12月号

CONTENTS

- | | | | |
|----|-------------------------|----|--------------------|
| 2 | キラリ輝く奥州人 | 13 | 【特集】5人が感じた奥州を多くの人に |
| 3 | 思いをカタチに 地域づくりの輪 | 18 | 街diary |
| 4 | 新型コロナウイルス感染症関係の情報 | 20 | ILC希望のひかり |
| 6 | 年末年始のお知らせ | | 市長コラム「おうしゅう羅針盤」 |
| 7 | 税のお知らせ | 21 | まなびの里 |
| 8 | 3年度市奨学生を募集 | 22 | もっと安心 ずっとおうしゅう |
| 9 | ローカル魅力発掘発信ワークショップを開催します | | はい、こちら総合相談室 |
| | 旧土地開発公社の処分活用状況を公表します | 23 | 子そだて広場 |
| 10 | 公共施設の個別施設計画(素案)の概要を公表 | 24 | インフォメーション |
| 12 | 令和2年度市勢功労表彰 | 28 | 奥州遺産 |



えさし蔵ホールの前で。感染症対策を取った上で、歌や踊り、演奏などが披露されている。詳しくは上記QRコードから

自身も太鼓を演奏する美二さんは、創作太鼓の曲を作り、その指導もしてきた。演者の気持ちは人一倍分かる。

「演奏する人にも見る人にも喜んでもらいたい」。その思いが、蔵ホールの立ち上げにつながった。「趣味に打ち込む人が披露する場所として気軽に使ってもらえれば」と美二さん。思いの音は地域に響き渡る。

86
キラリ輝く
奥州人

菊地 美二 さん(67歳)

=江刺愛宕=

その音は喜びを招く

「地域の人に喜んでもらいたい」。この思いが全て。今年9月、岩谷堂に「えさし蔵ホール」を誕生させたのが菊地美二さんだ。

太鼓店を営み30年以上。祭りや郷土芸能、神社などで使われる大小さまざまな太鼓や三味線を作ってきた。

元々は木工。住宅リフォームで訪れた家にあつた古い小太鼓を直してみたいと思った。幼いころ神楽や剣舞に親しみ、鳴り物には興味があつたのだ。修理した太鼓を渡すと、とても喜ばれた。これがきっかけ



きくち・よしじ
◎昭和28年、江刺田原生まれ。菊美太鼓店代表。今年、江刺川原町の蔵を改装した産直と多目的ホール「えさし蔵ホール」を開く。妻と息子、義母の4人家族。

で太鼓製造の道へ進む。試行錯誤を繰り返して技術を磨いた。さらに三味線も作りたいと、浅草に半年通い皮張りを学んだ。